

GEIJUTSU SHINCHO

芸術新潮 **6** 2000

昭和25年1月20日第三編発行 2000年6月1日発行 毎月1日1日発行 第51巻第6号

STARDUST

角永和夫の 垂らし硝子

作

家の意図やセンスを云々する以前に、「おお、こんな巨大なガラスのかたまりが！」的な素朴な驚きだったのだ、角永和夫（46年生れ）の『垂らしガラス』との出会い。1450度の高温でと



▲角永和夫展会場 [前]〈Glass No.4 L〉 1999年 高62cm / [後]〈Glass No.4 B〉 1997年 高84cm
ともにキャストガラス 各530万円

ろとろに溶かされたガラスが、細い糸のように垂らされて、うずたかく堆積してゆく。この作業に2昼夜、完全に冷え固まるまでにはさらに4カ月を要するという。たんにガラスが冷え固まるのではない、その場に働いていた時間と重力が、作品という形でフリース・バックされている——と言ったらちよっと恰好良すぎか。思わず近寄って撫でさすってみる。そんな出来心をさそう、ささやかな異物としてのたたずまいを見せていた。

「4・7〜28 スペース・カレイド」